

朝晩は涼しくなりました・・・



夏休みが終わりました。

世界陸上や高校野球、岸城中で見かけた部活動がんばる子どもたち、暑い夏にがんばっている人たちをみながら、好きで打ち込めることはしんどくても気持ちいいものだったよと改めて思いました。浜小の子どもたちはどんな夏休みをすごしていたのでしょうか。

登校日に台風の影響で暴風警報が出て、学校はお休みになりました。そのせいで、会えるはずだった子どもたちに会えず、学校の近所で出会った真っ黒に日焼けした子どもたち、学校に勉強しにきた子どもたち、ちびっこホームに来た子どもたちの姿を見ながら、みんな元気かなあと思いにふけていました。

そんな夏休みも終わり、学校に子どもたちの元気な声に戻ってきました。夏休みのしーんとした学校が、学校らしくよみがえったようです。「おかえりなさい」と始業式で子どもたちを迎えました。

子どもたちは、それぞれのご家庭で普段と違う経験をし、心も体もひとまわり大きくなったように感じます。

早く学校での生活のペースを取り戻し、夏休み中に充電したエネルギーを発揮しましょう。子どもたちが生活のリズムを取り戻すには、ご家庭の協力が必要です。ご協力、よろしくお願いします。

運動会の練習が始まります



今年の運動会は10月1日(日)。9月5日から練習が始まります。

団体演技は「心ひとつに」がんばる子どもたちですが、赤白に分かれての競技の練習になると勝ち負けが気になる子どもたち。

練習中も、負けると「お前の〇〇が悪いからや!」「何言うてんねん。あんたの〇〇のせいやろ!」とチーム内でもめることもしばしばあります。こんな風に言葉のドッジボールをしているチームは強くはなりません。同じ状況でも「さっきのここ、こんな風にしたらええんちゃう?」「そやな、練習してみるわ」と言葉のキャッチボールで伝え合えるチームは強くなります。

このことを子どもたちにもう一度伝え、今年も「チーム浜」としてすてきな運動会を作り上げたいです。

命はなぜ目に見えないか。

それは命とは君たちが持っている時間だからなんだよ。

死んでしまったら自分で使える時間もなくなってしまう。どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えながら生きていってほしい。

さらに言えば、その命を今度は自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。



平和登校日に子どもたちに話そうと思っていた日野原重明ドクターの小学校での「いのちの授業」での言葉です。

日野原ドクターは7月18日に105歳で亡くられました。生涯現役を提唱し、亡くなる数か月前まで患者を診続け、健やかに生きるための助言をされていました。人生をもっと楽しむように、常に心持ちにする何かをもって病を撃退するようにと。

日野原ドクターは、1940年第二次世界大戦中に医師としての人生をスタートさせ、戦時中は、東京大空襲で被災した多くの患者の治療に携わられました。

親しいジャーナリストによると

「日野原氏は、とにかく人生は貢献だと信じていました。そのため、他者を助けることや、早起きして他の人のために何か素晴らしいことをしたいという、ものすごい意欲がありました。これこそが、日野原氏を突き動かし、生かしていたものでした。日野原ドクターはただただものすごく素晴らしい人でした」

と言われてもどう素晴らしいかわからない方もいらっしゃると思います。たくさんの著書があるので読んでみてください。私事ですが、83歳になった私の母は日野原ドクターのファンです。

8月17日バルセロナでテロが occurred。百数十名の死傷者をだした犯人を許すことはできません。でもこの犯行に至った犯人を生んだ社会も許せません。

バルセロナの人々はこの事件の直後、病院で献血のための長蛇の列を作りました。そしてテロのおこった場所での追悼式で「私たちは恐れない！」とシュプレヒコールをおこし、店舗は翌日から通常営業しているそうです。



BARCELONA

H29. 9. 5